全科協 News

vol.51
NO.3
2021年5月1日発行　通巻第298号

特集

新型コロナウイルス パンデミック下で教育・普及活動をどう実施していくか

●CONTENTS●

P 2 ▶特集
P10 ▶海外博物館事情
P12 ▶5月6月の特別展等
P14 ▶リニューアル情報
P16 ▶トピックス

JCSM
Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
TEL 03-5814-9863　FAX 03-5814-9899
http://jcsm.jp/

新型コロナウイルスパンデミック下で教育・普及活動をどう実施していくか

新型コロナウイルスパンデミックにより、博物館活動は大きく制約を受けた状況にある。我が国は欧米ほどの感染拡大状況にはないこともあり、ほとんどの施設は感染対策をとったうえで再開されているが、ワークショップや講演会、サイエンスショー、野外観察会といった教育・普及活動については、密集や密接が避けにくいその特性により、パンデミック前と同様の実施状況には至っていない施設が多いと思われる。再開している場合も、従前のやり方をそのまま踏襲することはできず、コロナ禍が当面続くことを前提に、そのねらいと効果を損なわない実施方法が模索されている。

私が勤務する施設でも、室内講座や講演会、野外観察会などは、1回目の緊急事態宣言が解除された後の2020年7月から再開している。しかしながら、消毒や換気の徹底、定員減、実施時間の短縮、座席配置の工夫、物品配布方法の変更といった感染対策は一通り行っているものの、いまだ試行錯誤状態の部分も多いうえ、コロナ時代に対応した内容の深い検討にまでは至っていないのが現状である。

本特集は、感染拡大から1年あまりを経過し、いまだ終息を見通せないなか、博物館とその周辺における教育・普及活動の実施状況をふり返り、その新しいあり方を考える機会を提供することで、課題解決のきっかけとすべく企画したものである。オンラインの活用は有力な課題解決策のひとつだが、その事例については2020年11月発行の第295号（vol. 50 No. 6）で特集されていることから、今回は対面での対応を重点的に取り上げることにした。とくに、比較的柔軟な対応がとりやすい中小規模の施設や個人の活動では、より大規模な施設に比べ再開が進んでいるように思われることから、今回はそうした事例を中心に選んでみた。今後のパンデミックの動向によっては、対処法をまったく変えざるを得なくなる可能性もあるが、2021年春時点での状況ということで、これから教育・普及活動を再開する際の参考にしていただきたい。

きしわだ自然資料館　学芸員（参事）　平田 慎一郎

小さな自然博物館の小さな工夫 ～あくあぴあ芥川の教育普及事業～

高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）
主任学芸員 高田 みちよ　学芸員 秀瀬 みのり

はじめに

高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）（以下、あくあぴあ）は、大阪府高槻市の中央部分に位置する自然博物館である。1994年の開館当初は公園のビジターセンター的な位置づけの施設であった。2006年から指定管理者制度を適用し、2009年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターとNPO法人芥川倶楽部のジョイントベンチャーである「あくあぴあ芥川共同活動体」が管理者となっている（高田、2016）。

新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年2月からあくあぴあも対策を余儀なくされ、臨時休館、行事の中止、入館時の手指消毒や住所記載、マスク着用の義務付けなど、様々な対策を行ってきた（北村、2021）。こうした中で、最も苦慮したのが教育普及事業であり、現在も試行錯誤が続いている状態にある。本稿では、新型コロナウイルス感染症拡大以降、どのように教育普及事業を展開してきたのかを紹介する。

あくあぴあでの教育普及事業の方針

あくあぴあの来館者層は幼児を連れたファミリーが多い。共同体が運営を担い始めた時から、子ども向けの表現や、親しみやすい色使い、イラストなど、子どもが楽しめ、くつろげる雰囲気づくりを心掛けてきた。ぬいぐるみと一緒に座れる「おたまじゃくしの池」や、図書コーナーの図鑑の棚の前にマットを敷くなど幼児のための場を作ったり、鳥に変身できる「なりきりマント」、ハンズオンの教材が入った「わくわくBOX」などを工夫してきた（図1）。「わくわくBOX」は遊びながら学ぶための仕組みで、多いときで20種類あり、鳥の羽、マツボックリな

図1 再開館後のわくわくBOX

どの実物を手にとり観察できる教材のようなものや、折り紙、パズルなど遊びを通じて生き物に親しむツールを、いつでも使えるようにしていた。この「わくわくBOX」は非常に人気で、全ての箱を数時間をかけて体験するような家族もおり、休日には学習スペースが混み合うほどであった。子どもたちが楽しみながら自然のことを学ぶためにはどうすればいいか、ということを日々考え、実践してきた。

臨時休館中の工夫

新型コロナウイルス感染症対策のため、あくあぴあでも市の要請を受け、2020年3月3日から5月22日までを臨時休館とした。臨時休館中は学校も春休みとなっていたことから、いつも来館してくれている子どもたちはどう過ごしているのだろうか、博物館としてできることは何だろうか、を考えていた。来館しなくてもできることとして、ブログやツイッターで「わくわくBOX」の素材であるスゴロクや塗り絵がダウンロードできるよう配信、水槽の魚がどんなふうに餌を食べるかを解説する「もぐもぐタイム」を撮影してYouTubeで配信、他館との連携事業としてツイッターのハッシュタグを使った＃エア博物館に参加してみたものの、いまいち手ごたえが感じられない（ツイッター、2021）。子どもをもつ人から「私は子どもにネット素材は見せない」「子どもに博物館の教材を紹介したら、子どもが宿題のように受け止め、博物館を嫌いになると思う」という意見もあり、幼児にオンラインコンテンツは適切ではないのでは、と考えた。そこで、あくあぴあのファンクラブである「あくぴ・くらぶ」のニュースレターを利用し、身近な自然観察を提案することにした（図２）。「あくぴ・くらぶ」は2021年3月現在で170件（家族）を登録しており、3か月ごとに自宅にニュースレターが届く。これに「特別号」として休館中のニュースと、身近な自然観察を促す企画を告知した。企画「みんなのみ〜つけた!」は自然の中へ出かけて見つけた素敵なものの絵や特徴を用紙に記入し、あくあぴあに報告する、という手法にした（図3）。5月23日に発送した147件中26人からみつけた自然の報告が届き、再開館後には来館者にも紹介できるよう2階廊下に展示した（秀瀬，2021）。特別号第2弾では「いきものクイズ」を送り、自宅待機中の子どもたちに野外観察を促してみた。例えば、「テントウムシをさわってみよう。指先まで歩いていったらテントウムシはどうするかな？」というクイズによって、子どもたちが野外でテントウムシを探し、指に乗せてみることを狙った。特別号第3弾を送る時には再開館していたため、クイズの答えとして「やってみましたか？」という問いかけと、「私がやってみたところ・・・」という、正解ではなく一例を紹介する回答を送付した。

図2 あくぴ・くらぶ。会報誌とメンバーズカード、バッチ

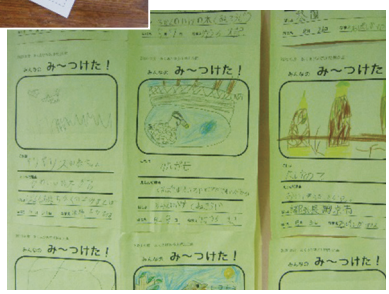

図3 企画「みんなのみ〜つけた！」展示状況

再開館後の工夫

再開館後の5月23日以降は新型コロナウイルス感染症対策として滞在時間や接触を減らすため、マットや椅子を撤去し、ハンズオン展示を制限した。「わくわくBOX」は消毒ができないので今までどおりの使い方はできず、素材の塗り絵、クラフト、スゴロクを持ち帰れるようにした。2020年10月からは、感染症対策の規制が少し緩和されたため、工作などの時間のかかるテーマの箱を減らし、消毒液を増設し、平日のみとして「わくわくBOX」や「なりきりマント」は使用できるようにしている。

観察会などの行事については、定員を減らし、イベント中に参加者同士が密集しない工夫をしている。今までは小さな生き物を観察する際、顔を寄せあってみんなで見ることが多かったが、複数のケースを順番に見せるなど、集まらない、みんなで触らない、などの対策をした。特に「子どもワークショップ」では、子どもたちが集まらないよう、座る場所を決めたり、チーム分けができるプログラムを考えたりと、集まらなくても子どもたちとのコミュニケーションがとれる工夫をしている（高田ら、2021）。

学校に対する工夫

あくあぴあでは毎年約20校の小学校の校外学習、約10校の中学校の職場体験を受け入れていた。しかし2020年5月の授業再開後も、市から小中学校の校外学習はすべて中止という指示が出され、10月の規制緩和後も、来館したのは小学校が数校と、中学校の部活動のみであった。以前からあくあぴあでは、高槻市教育研究会理科部会の活動に参加してきたので、臨時休館中は「貸出キット」の新規開発などを行っていたが、夏休みが終

わっても状況が改善しないため、教員、生徒・児童のためにできることを検討し、出張講座のPR企画を開始した。高槻市は人口36万人、小学校数41校で、小規模館では依頼に応えきれないため、今までは積極的には出張授業はしてこなかった。コロナ禍で他団体からの依頼事案が激減したことで出張授業の時間が調整できるようになり、市内全小学校の教員向けに出張水族館、講座、資料貸出などの案内チラシを配布した（図４）。期間は2021年3月までとし、講師料等の費用は無料とした。チラシの効果はあり、5校から反応があった。2021年度も継続する予定である。

図4 学校へ配布した案内チラシ

おわりに

全国の博物館でコロナ禍を乗り越えるためのさまざまな取り組みがなされているが、館によって利用者層はさまざまで、求められているものも館によって異なるだろう。オンラインでの行事開催や資料のデジタル化は、小規模館では人数、技術、設備などが足りず、実施は簡単ではない。むしろ、地域のニーズに合わせた地道な活動が、小規模館に求められるものではないだろうか。移動できない、集まれない、触れない状況下で、自然への興味を継続して深めてもらうための工夫を、今後も展開していきたい。

引用）

◆北村美香（2021）、地方博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策の現状、守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～2020年度 事業報告書、pp.10-14.

◆秀瀬 みのり（2021）、コロナ自粛期間中でも本物に触れる体験を～「みんなのみ～つけた！」事例紹介～、Musa博物館学芸員課程年報、第35号、追手門大学、pp.7-11.

◆高田 みちよ（2016）、NPOへの博物館指定管理者移行に伴う課題と成果　高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）の場合、日本ミュージアム・マネージメント学会研究紀要、第20号、日本ミュージアム・マネージメント学会、pp.19-26.

◆高田 みちよ、上田裕子、栄田久美（2021）、コロナ禍でのあくあぴあ子どもワークショップ運営、第28回全国科学博物館協議会研究発表大会資料、全国科学博物館協議会、pp.19-25.

◆ツイッター＃エア博物館
https://twitter.com/hashtag/エア博物館?f=live
（2021年3月閲覧）

こども向け絵画造形教室のコロナ対応とそこから見えてきたこと

サンエス絵画造形教室
塩山 俊彦

1 はじめに

私は画家として個人でこども向けの絵画造形教室を主宰する傍ら、遊んで学べるこどものための博物館「キッズプラザ大阪」で、創作表現をテーマにしたワークショップを実施する「創作工房」の指導員を、2000年から続けています。同館ではコロナ禍を受け、入館時の検温、消毒、マスク着用を必須にしているほか、窓やドアを開放しての換気、サーキュレーターや空気清浄機の設置、こまめな清掃・消毒、ソーシャルディスタンスを促すためのパネルや足跡の表示など、多くの感染予防対策がとられています。創作工房でも、ワークショップ前の手指消毒はもちろん、非対面での着席やスタッフのマスク・フェイスシールドの着用など、最大限の注意が払われていますが、今回は個人で行っている絵画造形教室での感染予防対策と、そこで得た経験を中心にご紹介したいと思います。

2 コロナ以前の状況と休講に至る経緯

コロナ以前の教室では、こどもたちは対面で着席し、絵画や造形、木工工作、自分の作品を仕上げるプログラムなどを自由に楽しむことができました。1回の定員は14名で、こどもたちが遊びながら学べる場として、「密」を楽しむ教室になっていました。

ところが新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、キッズプラザ大阪は2020年2月下旬から臨時休館することになりました。3月には政府による学校休校要請が出たことから、個人での絵画造形教室もしばらく休講することを決断しました。未知のウイルスへの対処法が定まっていない時期であり、なにより生命に関わる問題であるとの判断からでした。

当初、1ヶ月ほど休講したうえで春休み明けからの再開を考えていたのですが、4月に緊急事態宣言が発出され、

休講期間を延長せざるを得なくなりました。宣言は5月に解除されましたが、今度は「三密を避ける」という新しい生活様式が提案され、絵画造形教室もそれに対応した内容への変更を余儀なくされました。そのための準備期間として、5月と6月の2ヶ月を費やしたのです。

3「新しい生活様式」に合わせた絵画造形教室とは

三密のうち「密集」「密接」を避けるため、1回当たりの定員は最大6名までに減らし、完全予約制に変更しました。そして、参加者は対面ではなく長机1台につき1人のみ着席してもらい、ソーシャルディスタンスを確保するようにしました。さらに、必要に応じてパーテーションの設置も行いました（写真1）。

写真1 感染症対策後の教室の様子

三密のもうひとつ「密閉」の回避は、換気を十分にすることで対応しました。部屋の出入り口を開けたままにしたうえで上部の小窓も開放し、さらに教室の隣にある木工室も同様にして、常に新鮮な空気が流れるよう配慮しています。

教室の実施前後には机や椅子、床、壁、道具などの消毒を行いますが、それらをスムーズに進めるため、部屋内の備品のうち本棚や素材置場、遊具などは撤去し、長机と椅子、パーテーションだけを置くようにしました。また参加者には、入室時の手指消毒と検温、咳チェック、マスク着用などをお願いしています。これは、講師である私も同様です。

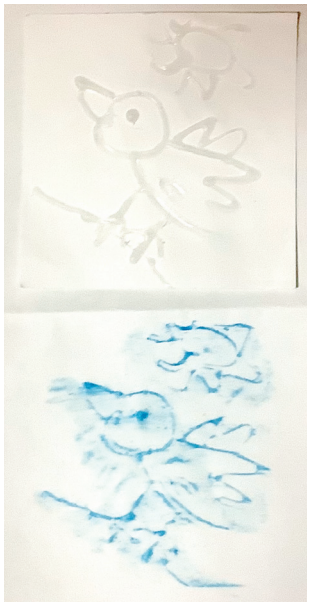

写真2 木工用接着剤を使ったフロッタージュ

さらに、こどもたちがいつも楽しみにしているプログラムの内容も変更する必要がありました。そのとき気をつけたのは、制限を感じさせないよう工夫することです。たとえば、硬貨のような立体的な絵柄のある素材に紙を押し当てて色鉛筆などでこすり出す「フロッタージュ」という技法を使ったプログラムでは、参加者が同じ素材を使い回さないようにし、各自に木工用接着剤で絵を描いてもらい、それを乾燥させて浮き出た絵柄をこすり出すという形式に変更しました（写真2）。一方で、「ダンボールでみんなが入れるお家をつくろう」という名前のとおりのプログラムは、接触が避けにくいことから中止しています。

素材については、プログラムで使うものは、以前と同様に新品を渡しています。しかし、こどもたちが自由にさわって選ぶことができるようにしていた共有のものは、配布のやり方を工夫する必要がありました。熟考した末、教室の隣にある木工室に素材置場を新たに設置し、参加者の希望を聞いたうえで私が手渡す形式をとるようにしました。これは本なども同様です（写真3）。感染対策でとったやり方ですが、こどもたちからは「お買い物しているようで楽しい」という意外な好評価も。ゴミもほとんど出なくなり、物を大切にしようという気持ちが伝わりやすくなった気がします。牛乳パックやお菓子箱などは、唾液が付着している可能性が捨てきれないので完全撤去しましたが、素材がないならないなりの工夫で作ることの楽しさを伝えるようにしています。

写真3 木工室に設けた素材置

こうした変更内容は、こどもたちや保護者の方々には書面を通して伝え、そのうえで生徒の再募集を開始したのは6月中旬のことでした。

4 コロナ禍で新たに見えてきたもの

教室を再開し、この3月で9ヶ月になりましたが、いろいろな制限を不自由に思う一方で、こどもたちの心の状態をとらえやすくなったとも感じています。定員を減らしたり、遊具を下げたりしたことで、教室に通うこどもたちとの関わりが密になったことが、その要因のひとつなのかもしれません。こどもたちはコロナ以前に比べ、制作過程の一つひとつで「できたよ！」というアピールや手順確認をすることが多くなりましたし、制作中には、鼻歌や独り言、おしゃべりに加え、『○○さんがいると心が暖かくなる』『BGMの音楽は元気が出る』といった発言も増えました。

コロナ前までは、身体的にふれ合ったり、会話をしたり、笑ったりすることで、こどもたちは心の内にある問題を自ら軽減していたように思います。人と人との接触で感染の確率が高まるコロナ禍にあり、こうしたことは

やりにくくなってしまいましたが、それでもこどもたちがわざわざ教室を訪れてくれるのは、やはり「人と直接話をしたい」「心の交流がしたい」「感動したい」「自分を見つめ直す時間を持ちたい」といったことを求めているからではないでしょうか。最近はお話しする機会も元のように戻りつつありますが、指導する立場としては、単にこどもたちを優しく見守るだけでなく、コロナ以前にはよく見えていなかった心の状態をしっかり受けとめる必要があると考えています。

5 これからの絵画造形教室

毎週毎回、同じメンバーで行っている教室でのワークショップですが、一期一会のものであり、その場の雰囲気は毎回異なっています。音楽のライブコンサートが観客と一体となって会場の雰囲気を作り上げていくのと同様、私は筆やハサミなどの道具を使った美術によるライブコンサートの心づもりで教室を開催しています。このライブ感覚に演劇や心理学的な要素も取り入れ、こどもたちとともに素敵な時間と空間を共有できる教室を作っていきたいと考えています。そしてそれは、指導員をしているキッズプラザ大阪での活動でも同様なのです。

発想の転換でコロナ禍をのりきる

世界一小さい科学館　理科ハウス
館長 森 裕美子

はじめに

コロナ禍によって振り回された一年が過ぎ、まだ終わりが見えない。この間、世界一小さな科学館で行った対応について報告する。

臨機応変に変化できるのは、小さい施設の強みでもあると思うが、理科ハウスは小さすぎて、他の博物館の参考になるかどうかはわからない。どのくらい小さくて、どんな科学館なのかをわかっていただくために、簡単に理科ハウスの説明をしておく。

開館日時は火・金を除く週５日で午後１時～５時。対象者は中学生以上～大人　(2019年から対象年齢を小学3年生から中学生にあげた。これには深い理由があるが、今回のテーマとはずれてしまうので別の機会があれば書いてみたい)。 来館者数の平均は10人弱。学芸員と館長は、開館している間は常にフロアに居て解説を行っている。そのために来館者の滞在時間はたいてい3時間以上。

リピーターが多く、中学生～25歳までが入れる会員制（無料）の「理科ハウスクラブ」があり、会員と理科ハウスはメールでつながっている。会員数は現在約40名。

館内の広さは総床面積が100㎡くらいの2階建てで、トイレや階段、本棚、展示物、倉庫などを除くと、来館者が自由に動き回れるスペースはだいたいその半分程度となる。展示やポスターは外注せず、すべて自館で製作している。観る、触る、聞く、匂う、味わうなど五感を使い、会話を楽しむ科学館だが、コロナ禍ではどれも難しい。観る、聞くなら体験できそうだが、顕微鏡などの道具を使う物は控えたほうがよい。このような制約の中でできる次のような展示を考えて実行した。

「ひとり実験」

触るのを避けるのは、複数の人が触ることで感染が広がるためである。では､触るのがひとりならどうだろう、と始めたのが「ひとり実験」だった。2020年3月には学校が休校、また、4月からはリモートで授業が行われることが多くなり、理科実験の機会が奪われていた。理科の教科書に載っているものから理科ハウス内でできるものを選出し、中1は20種、中2は11種、中3は9種、高校は8種の実験が体験できるように用意した。来館者は予約制にしていたので、来る学年をあらかじめ把握することができ､材料などの準備がうまくできた。実験は「ひとり実験」の名のごとく、来館者が最初から最後まで自分だけで行う。一人分の資料（教科書など）と道具と材料を渡すと、スタッフは少し離れて見守り、困ったときだけアドバイスをする。

体験する人は「この実験、やったことがある」と言って揚々とやり始めるのだが、いざやってみると思い通りの結果がでないことが多い｡学校で一度経験していても、全部をひとりでやっていたわけではないからだ。ひとりでやることで新しい気づきが多く、また自信にもつながるようだった。このやり方はソーシャルディスタンスをしっかりととれるやり方だったけれども、予約制にしていたからできたのだと思う。

「三浦半島の成り立ち」

観る展示ならよいだろうと作った、パワーポイントを使った解説つき展示。いままで理科ハウスではデジタル動画の部類はほとんど使わずにやってきた。それよりも手に触れられるものを使って実際にやってみることを重視して

いた。しかし、コロナ禍はこの考えを180度変えてしまった。

内容を「三浦半島の成り立ち」にしたのには理由がある。2019～2020年、逗子市近辺では崖崩れが多発していた。2人の犠牲者が出て、市内にかなりの衝撃が広がった。崩れた地層はいずれも逗子層であり、崩れた理由を知りたいという関心が高まっていた。こういうときに地域の科学館が提供できることは、基礎的な知識や確かな情報ではないだろうか。大急ぎでコンテンツを作成することにした。ちょうど緊急事態宣言下で休館中だったので、地層の石を収集したり、監修者にリモートでコンテンツを見てもらい何度も修正するなどを行った。

解説は、飛沫が飛ばないように録音がよいと当初は考えていたが、途中で質問をする人が予想以上に多くいて、距離を取ってでも生解説で行うほうがよいことがわかった。この解説は1時間もかかる大作になってしまったが、実物の石を見ながらの解説がとても好評を得、市役所に出向いて行うこともあった。しかし、地学をまだ学習していない人には、この展示はたいくつだと思われたので、「三浦半島から恐竜の化石はでるのか？」というクイズを散りばめた中学生バージョンも作った。中学校の科学部が数人で来ていたときには楽しんでくれた。

COVID-19に関連する展示

新型コロナウイルスについての展示も作成した。簡単に紹介する。

「新型コロナウイルスの大きさ」 常設の動物細胞トイレの大きさにあわせてウイルスを作成し追加した（写真1）。

「COVID-19にかかっている人を探せ！」 数本の細長い紙に塩基配列が書かれている。その中から新型コロナウイルスの塩基配列（の一部）と同じものがあるかを探す。

「なんちゃってPCR」 PCR検査とはどんなことをやっている検査なのかを知ってもらうための展示。PCR検査の工程を体験してもらうようにした。

「伝染する病気が入っています」箱の中に感染性の病名を入れておく。それぞれの病気の原因となるものを生物分類で分けていくという展示。生物分類は常設にあるものを使用。

写真1 動物細胞トイレのドアにつけたウイルス

休館中の活動

最後に休館中の活動について報告する。

◆ホームページの更新

通常では日記欄に館内でのできごとを発信しているのだが、休館中であっても同じペースで書き続けている。この日記を読むのは、主に常連の人たちと考えられる。彼らに館の活動が停止していないことを知ってもらうことが大事だ。

◆外から見える展示

理科ハウスの入り口はガラス張りになっており、外から中が見える。その小さなスペースに展示物を並べている（写真2）。あるときは骨、そして化石、種など。壁面には、近くにある池子の森自然公園内の自然情報を黒板で紹介している。休日などで前を通る家族連れなどが中を覗いて見ていく。

写真2 外から覗ける展示物

◆国際宇宙ステーション可視情報を立て看板で

館前の道路は、通勤や通学で利用する人が多いが足を止める人は少ない。そこで、今までは館内で行っていた国際宇宙ステーション可視情報を黒板に書いて入り口前に置いてみた（写真3）。すると、足を止めてスマホでその黒板を写真に撮っていく人が増えた。「家族で見ました！」「次はいつですか」などのメールや問い合わせもいただき非常に効果的であると感じた。

写真3 アナログな情報発信

さいごに

コロナ禍になってからは、開館日を減らして土日月のみとし、予約制5人までにしている。一時は理科ハウスクラブ会員のみに限定したこともあった。予約制にしたことで、混む心配がなくなった。来館者との会話はさらに濃厚となり、充実した時間が過ごせているように感じる。スタッフは2人しかおらず、どちらかがCOVID-19にかかったら即、休館するしかない。私は2種類の肺疾患と難病を持っているので緊張しながら生活している。ワクチンを打てる日が待ち遠しい。

熊本県天草地域における野外活動体験の取り組みについて

天草市立御所浦白亜紀資料館
主査 黒須 弘美　主任 鵜飼 宏明

1. はじめに

新型コロナウイルス（以下COVID-19）のパンデミックにより、世界中の博物館では、入館者数の制限や、博物館活動に制限を受けた状態が継続し、先の見通しがつかない状態が続いている。当資料館は野外体験活動を多く行っている館であり、現在の状況下においても、感染症対策を行いながら、少しずつ活動を再開している。本稿では、天草市立御所浦白亜紀資料館が行っている教育普及活動の中で、特に野外体験活動を中心に紹介する。また、天草の自然を広く活用した独自の活動「海にうかぶ博物館　あまくさ」についてもあわせて紹介する

2. 天草市立御所浦白亜紀資料館における COVID-19感染拡大後の動きと現状

天草市立御所浦白亜紀資料館は、熊本県天草市の離島・御所浦島に位置している。御所浦島やその周辺地域は、「化石の島」あるいは「恐竜の島」と呼ばれ、中生代白亜紀の恐竜が生きていた時代の化石や、新生代の哺乳類の化石等が多く発見されている。

天草市立御所浦白亜紀資料館では、この島の地域特性を生かし、来館者が化石採集体験を行うことができるトリゴニア砂岩化石採集場を設けていたり、夏休み期間中に一泊二日で行う夏休み化石セミナー（前期・後期の2回開催）や、ゴールデンウイーク化石教室等の野外体験活動を毎年行っていた。しかし、感染拡大後、今までどおりにこれらのイベントを行うことが難しくなった。

COVID-19感染拡大に伴い、天草市立御所浦白亜紀資料館も2020年4月15日から5月31日まで臨時休館の措置をとったが、現在では感染拡大防止策を行いながら開館している。また、教育普及活動や野外体験活動も、規模を縮小する等の対策をしながら行っている。

3. 常設の体験について

天草市立御所浦白亜紀資料館では、受付にて申し込みを行えば、屋外のトリゴニア砂岩化石採集場を利用し、化石採集体験を行うことが出来る。

従来は人数制限などを行っていなかったが、COVID-19感染拡大後は、化石採集体験を行う人数の制限や、利用者に対し採集場内ではなるべく固まらないようにして体験を行っていただくよう呼びかけを行っている。また、貸し出しを行っているハンマーも、返却後は洗浄及び消毒を行っている。

従来は、採集した化石について、学芸員が化石の同定を行っていたが、現在は同定する化石の数を制限し、対面する時間を減らすことや、小人数のみ入室していただく、入室前には手の消毒を行ってもらい、マスクを着用してもらう等をお願いして、規模を縮小し、感染拡大防止策を行ったうえで行っている。

4. 従来開催していた教育普及活動や体験について

夏休み化石セミナーは、従来一泊二日のイベントを1日の活動に縮小し、募集人数も約30名から約20名に変更し、「夏休み日帰り化石セミナー」として夏休み期間中に2回開催した。室内ではソーシャルディスタンスをキープし、マスクを着用してもらう等の対策を行い、移動手段においても、当初は島の中をバスで移動し現地に向かう予定であったが、密集状態を避けるため、海上タクシー（小型の貸し切り船）を利用し、参加者4−5名に対しスタッフ1−2名という形で班を形成し、移動を行った。また、万が一のため、一名のスタッフは車で現地へ向かい合流する形をとった。

写真1 海上タクシーで現地に移動する様子

現地の案内は、以前は参加者全員に対し解説を行っていたが、船にのっている班ごとに学芸員が案内を行うという少人数での対応形式に変更した。化石採集時も、基本的には班ごとに行動し、化石の同定（化石の名前の判定）についても、それぞれスタッフが固定でついて行う方式に変更した。また、マスクを着用しているため、特に野外での熱中症予防対策も行い、こまめにスタッフ側から呼びかけて水分をとっていただいた。

1日の日帰りでの開催に変更となったが、2回の開催のどちらとも約20名の方にご参加いただき、参加者からも笑顔がこぼれ、楽しく参加できたとのお言葉をいただくことができた。

写真2 現地での様子

ゴールデンウイーク化石教室は、毎年ゴールデンウイーク期間中に毎日行っており、館内と化石採集体験場について学芸員やスタッフから解説を聞きながら見学・体験ができるものである。従来は、人数制限もなく当日参加可能の人気の活動であったが、今年度はCOVID-19感染拡大防止のため、中止となった。こちらも、2021年は感染拡大防止策を行い、開催予定である。

野外体験活動に関しては、天草の自然資源を利用して行う取り組み「海にうかぶ博物館　あまくさ」でも行っている。

5. 海にうかぶ博物館あまくさの取り組み

天草市立御所浦白亜紀資料館のある御所浦島を含む天草地域（天草市、上天草市、苓北町）は天草ジオパークとしての活動を、令和2年3月末に終了させ、新たに『海にうかぶ博物館　あまくさ』という活動で取り組んでいくことになった。

天草は自然資源が豊富な場所で、海ではマリンスポーツ、陸では登山やオルレ、トレッキングなど、海や風光明媚な島の景観を満喫できる。『海にうかぶ博物館　あまくさ』では、こうした天草地域の資産を活かしながら、美しい天草の自然を満喫するだけでなく、自然と向き合い、自然の仕組みを理解し、後世に美しい自然を残す活動を支援している。

その活動の一つとして教育支援活動がある。例えば、自然に関する野外学習の支援や教育現場への支援として「出前授業」を行うことがある。「出前授業」では教室での講義、野外見学地でのガイドなどを行う。今年度は学校でのコロナ対応による授業数の削減で、申し込み数が例年よりかなり少ない状況である。しかしながら、申し込み頂いた学校へは、野外での対応を提案し、しっかりと対応させて頂いた。その例を紹介する。

まず、開催時期は、県独自の緊急事態宣言や、地域自治体の定めるリスクレベルの度合い等を考慮し、学校側と決定した。日程が決まれば、次に内容の詳細を決めていく。今年度は、コロナ感染症予防を考慮し、より感染リスクの低い野外授業の支援を学校側へ推奨した。野外の見学地観察については、天草市で交通費の援助を行っている。今年度の特徴としては、移動でバスや海上タクシーを利用する場合は、生徒の席の間隔を空け、十分なスペースを確保してもらった。そのことで、利用するバスや海上タクシーの大きさが大きくなることや台数が多くなり、1団体あたりの交通費が例年より増加している。もちろん、これらに加え、通常行っている感染防止処置である、マスク、手洗い、除菌も併せて行っている。

室内で行う出前授業の場合は、通常行っている感染防止処置と、教室の喚起を十分行った上で行った。標本を触らせる場合は、自己選択で、使用した岩石標本等に関しては毎回、スタッフが除菌シートで拭き取った。

コロナ禍で、子供たちにとって外出する機会が減り、地域の文化や自然を知る機会が減っている。そのような時だからこそ、接触者数が限定された出前授業を通じ、地域学習を充実したものにしてもらいたいと願っている。

写真3 野外での露頭解説

海外博物館事情

No.163

安井　亮

■ 新型コロナウイルス感染症拡大と戦う博物館

ロンドン科学博物館に、新型コロナウイルスの集団予防接種センターを開設（3月）

2021年3月11日に、ロンドン科学博物館に、新型コロナウイルスの集団予防接種センターが開設された。先行したサックレー医学博物館（2020年12月9日）、グレート・ウェスタン鉄道博物館（同12月16日）、ブラックカントリー・リビング博物館（同12月25日）に続く開設だ。館内の特別展示ギャラリー1で、ワクチンの接種が行われている。

Science Museum, London.
https://www.sciencemuseum.org.uk/about-us/press-office/science-museum-reopen-nhs-vaccination-centre-year-after-closure-due-covid-19

ミラノ国立科学技術博物館に、新型コロナウイルスの集団予防接種センターを開設（3月）

2021年3月19日に、ミラノ国立科学技術博物館に、イタリアの博物館として初めて新型コロナウイルスの集団予防接種センターが開設された。ワクチンの接種は、企画展・特別展が開催されるオロナ棟で行われている。

Museo Nazionale della Scienza e della Tecnologia, Milano.
https://www.museoscienza.org/it/area-stampa/ripresa-vaccino-covid-museo

■ 新型コロナウイルス感染症拡大と博物館の廃館

米ニューハンプシャー州の子ども天気博物館が、新型コロナウイルスのパンデミックの影響で廃館（2020年10月）

2020年10月23日に、アメリカ東海岸のニューハンプシャー州のノースコンウェー村（人口：約2,200人）にある、子ども天気博物館（1999年設立）が、新型コロナウイルスのパンデミックの影響により、廃館に追い込まれた。非営利法人のマウントワシントン気象観測所（1932年設立）によって運営されてきた子ども天気博物館は、山間にあるノースコンウェー村を拠点に、同村を訪れる観光客、とりわけ子どもを対象に、山岳観光地である周辺の気象について学ぶ機会を提供してきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、長期休館を余儀なくされ、それにともなう収益の悪化を理由に、10月23日にマウントワシントン気象観測所は事業縮小のため、子ども天気博物館の廃館を決定し、即日博物館の活動に終止符が打たれた。展示品は、廃棄処分をされることなく、他の科学系博物館などに売却されることになっている。またミュージアムショップの商品も子ども天気博物館の廃館にともなって、閉店セールが行われた。博物館は閉じられたが、マウントワシントン気象観測所の気象観測と天気情報の提供は継続されている。

Weather Discovery Center, North Conway, New Hampshire.
https://www.mountwashington.org/visit-us/weather-discovery-center/

英エドワード・ジェンナー博物館が、廃館の危機に直面

天然痘ワクチンの開発者エドワード･ジェンナー（1749～1823）の生家は、イギリスはイングランド南西部のグロスターシャー州のバークレー村（人口：約2,000人）にあり、1985年から博物館になっているが、新型コロナウイルスの感染拡大のために、2020年2月末から休館が続いている。収入の70％を観覧料が占めていることから、長期の休館は経営を圧迫しており、廃館の危機に陥っている。地元自治体をはじめ、製薬メーカーや個人に救済のための寄付を積極的に訴えているが、危機的状況を脱せないでいる。エドワード・ジェンナー博物館の建物は、長くイギリス国教会の司祭館（エドワード・ジェンナーの父ステファンは司祭だった）として使われていた。1985年5月に財団法人日本船舶振興会(現在の日本財団)からの寄付を得てイギリスにグレイトブリテン・ササカワ財団が設立され、同財団の初年度事業として、エドワード・ジェンナー博物館の設立に多大な寄付が行われた。2014年にはジェンナー財団(The Jenner Trust)が設立され、博物館の運営を行ってきた。老朽化が目立つ施設の整備に、2019年に国営宝くじ基金から総額32,000ポンドの助成を受け、2023年の没後200周年記念、及び2025年の開館40周年記念に備えてきたが、突如降って湧いた新型コロナウイルスのパンデミックの発生により、ふたつの記念事業の開催はおろか、博物館そのものの続行が危ぶまれている。

Dr Jenner's House, Museum and Garden, Berkeley, Gloucester.
https://jennermuseum.com/events/quarantines-vaccines-and-museums
https://www.museumsassociation.org/museums-journal/news/2020/12/birthplace-of-vaccination-fights-for-its-future/#

■ 新設館

スウェーデンに、ルンド科学館が開館へ（2024年予定）

2024年の開館をめざして、スウェーデン南部の学園都市ルンド（人口：約12万人）で、ルンド科学館の整備が進めら

れている。新しい施設は、スウェーデンで2番目に古いルンド大学で研究されている、都市開発、生命科学、気候変動、デジタル技術等のテーマが取り上げられることになっている。展示では、現在使われている先端技術や将来使われる技術の理解と普及のために、参加型（engaging）であり遊びを重視した展示手法を使われることになっている。またルンド市内にある電子加速器研究施設「MAX IV」（2015年完成）と、中性子研究センター「ESS」（2024年完成予定）で行われている先端技術の研究も紹介されることになっている。6,000㎡の延床面積をもつ新しい施設には、展示室のほか、ワークショップやホールのほか、ショップとレストランが設けられる。同館の大きなウリは、カーボンニュートラルを積極的に取り組んでいるスウェーデンの啓蒙普及の模範例として、太陽光発電をエネルギー源にしようとしていることだ。建物の設計は、デンマークの建築設計事務所COBE社（本社：コペンハーゲン）が手がけた。

Lund Science Center, Lund, Skane County.
https://sciencevillage.com/en/projekt/new-science-center/
https://www.cobe.dk/idea/sciencecenter

旧イケアのコヴェントリー店の建物に、市立交通博物館の収蔵品を展示へ（2023年予定）

イケア（IKEA）は、スウェーデンに1943年に設立され、ヨーロッパ・北米・アジア・オセアニアなど世界各地に出店している世界最大の家具量販店であるが、イギリスは中部の自動車産業都市コヴェントリー（人口：約380,000人）にあったコヴェントリー店が2020年3月に閉店した。閉店後から空き家となっていた建物を壊さずに再活用する計画が、地元コヴェントリー市を中心に検討が重ねられてきたが、ようやく関係者の間で、建物の使い道が決まったようだ。政府系の芸術助成組織であるアーツ・カウンシルの展示施設を誘致し、同カウンシルが所蔵する美術作品の展示のほか、コヴェントリー市立交通博物館とコヴェントリー市立ハーバート博物館の所蔵品の一部が常設展示されるようだ。新しい施設の名称は、「ナショナル・コレクション・センター」。開館は2023年8月。

National Collections Centre, Coventry.
https://www.museumsassociation.org/museums-journal/news/2021/02/coventrys-former-ikea-to-become-national-collections-centre/

■ リニューアル・移転

豪オーストラリア博物館が、リニューアル・オープン（2020年11月）

2020年11月28日に、オーストラリアは、シドニー（人口：531万人）にある、オーストラリア博物館が、15ヶ月のリニューアル工事を経て、オープンした。世界で5番目に古い自然史博物館である同館（1827年設立）は、今回のリニューアルで公共部分が3,000㎡拡張され、また特別展示室も850㎡から1,500㎡に拡張された。広くなった特別展示室では、規模が大きい国際巡回展を開催できるようになった。また同時に二つの特別展が開けるようになった。リニューアル総整備費：57.5万豪ドル。

Australian Museum, Sydney, New South Wales.
https://australian.museum/about/organisation/media-centre/reopening-announcement/

米オークレア子ども博物館が、移転･新設へ（2022年予定）

2022年9月23日の開館をめざして、アメリカは、ウィスコンシン州オークレア（人口：約69,000人）にあるオークレア子ども博物館（1999年設立）が、市内の新しい場所に移転して、新しい建物を整備している。

同館もアメリカ国内の大多数のミュージアムと同様に新型コロナウイルスの感染拡大に大きな影響を受けた。2020年3月16日に臨時休館を強いられ、7月6日にいったん開館したものの、市内の感染者が急激に増えたために、すぐにまた臨時休館を強いられた。この間、今まで使っていた建物を売って欲しいという企業が現れ、交渉の結果、売却が成功した。売却で得た資金で新しい場所に移転し、さらに新しい建物（延床面積：約2,600㎡）もつくれる幸運に恵まれた。2022年の9月に再開するまで、博物館は移動式展示活動を続けるようだ。

Children's Museum of Eau Claire, Eau Claire, Wisconsin.
https://www.childrensmuseumec.com/
https://wqow.com/2020/09/22/childrens-museum-of-eau-claire-will-remain-closed-until-2022/

■ 常設展

米ボストン科学博物館、北極探検の常設展をオープン

2020年12月6日に、アメリカ東部のマサチューセッツ州のボストン（人口：約4,309,000人）にあるボストン科学博物館で、北極をテーマとした常設展示「北極探検」がオープンした。新しい展示では、北極の厳しい環境やそこの住む動物について学べるだけでなく、北極からもってきた本物の氷の塊に触れたり、北極の地質や氷について調査をしている研究者が使う調査機器（地中レーダーや地下層の氷を採掘するドリル）を操作することができる。同展では、気候変動が北極の与えている深刻な氷解と海面上昇についても学べるようになっている。

Museum of Science, Boston, Massachusetts.
Arctic Adventure: Exploring with Technology.
https://www.mos.org/exhibits/arctic-adventure

List of special exhibition!

5月6月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	ゴールデンウィークイベント2021「木木（もくもく） ひろば」	4月29日～5月5日
岩手県立博物館	岩手県立博物館開館40周年記念特別展 「みる！しる！わかる！三陸再発見」	6月12日～8月22日
奥州市 牛の博物館	疫病退散！うしはく赤ベコ大集合	4月24日～6月13日
山形県立博物館	1971　～やまはく誕生物語～	6月5日～8月29日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「第6回ふくしま星・月の風景フォトコンテスト作品展」	3月6日～7月11日
産業技術総合研究所 地質標本館	特別展「日本列島ストレスマップ －地震観測とAIで読み解く全国の地殻応力場－」	4月27日～8月1日
ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	第80回企画展「化石研究所へようこそ！ －古生物学のすすめ－ 」	2月27日～6月13日
栃木県立博物館	テーマ展「承久の乱800周年　長沼氏から皆川氏へ －皆川文書でたどるその足跡－」	3月20日～5月9日
	テーマ展「新収蔵庫ができました!」	3月20日～6月27日
	第129回企画展「収蔵庫は宝の山！～博物館の資料収集活動～」	4月24日～6月27日
	テーマ展「美術工芸収蔵庫も宝の山！～名品たちが語る裏話～」	5月22日～6月27日
群馬県立自然史博物館	第63回企画展「すき間片隅植物図鑑」	3月20日～5月16日
越谷市科学技術体験センター	SDGsってなに？　未来のためにいまわたしたちができること	3月23日～5月5日
埼玉県立自然の博物館	企画展「新収集品展」	3月13日～6月20日
千葉県立中央博物館	本館　令和3年　春の展示「九十九里浜の自然誌」	3月6日～5月30日
	分館　令和3年度　春の展示「うめ・もも・さくら」	4月1日～5月5日
	分館　令和3年度　企画展「ちばらき－千葉県と茨城県の境－」	5月29日～6月27日
我孫子市鳥の博物館	特別企画「日本の鳥～収蔵標本公開～」	3月27日～6月27日
国立科学博物館	特別展「大地のハンター展 ～陸の上にも4億年～」	3月9日～6月13日
	ご生誕120年記念企画展「昭和天皇の生物学ご研究」	4月20日～6月20日
郵政博物館	郵便創業150年記念企画展　日本郵便の誕生	4月20日～6月6日
	令和三年度　新収蔵資料展	6月19日～7月4日
たばこと塩の博物館	ミティラー美術館コレクション展 インド コスモロジーアート 自然と共生の世界	2月6日～5月16日
	シブい工芸　たばこ盆　～地味な立ち位置・たしかな仕事～	5月29日～7月4日

※施設の一部を閉鎖している館園や、入館に際し予約を必要とする館園がございます。各館園のホームページをご確認ください。

開　催　館	展　覧　会　名	開　催　期　間
富山市科学博物館	企画展「日本星景写真協会写真展－星の風景 2020 －」	4月17日～5月23日
	令和２年度富山県科学展覧会 入賞作品展「アイディア浮かぶ科学の広場」	6月5日～7月4日
世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ	極彩蛇頭魚 － スネークヘッド －	4月17日～7月11日
中津川市鉱物博物館	第39回私の展示室「北陸地方の化石」	3月27日～9月5日
ふじのくに地球環境史 ミュージアム	トピックス展「人類史ライブラリーができるまで」	4月6日～6月6日
	ミュージアムキャラバン展	4月24日～6月13日
	県勢標本－「静岡発」自然史コレクションから見えるもの－	4月24日～11月7日
豊橋市自然史博物館	企画展「新蔵資料／学芸員の研究成果紹介展」	4月17日～5月23日
名古屋市科学館	ノーベル賞受賞100年記念 「アインシュタイン展」	3月20日～6月6日
大阪市立自然史博物館	特別展「大阪アンダーグラウンド －掘ってわかった大地のひみつ－」	4月24日～6月20日
高槻市立自然博物館 （あくあぴあ芥川）	芥川と70年前の少年たち ～わしらも昔は川ガキやったんや～	5月22日～7月11日
伊丹市昆虫館	伊丹市昆虫館×箕面公園昆虫館 2館合同「魅惑のいもむし・けむし展」	3月31日～7月19日
	プチ展示「虫のおりがみ」	4月14日～7月5日
明石市立天文科学館	大西浩次星景写真展「幻想, 銀河鉄道の夜」	4月10日～5月23日
	たのしい時計展	5月29日～7月11日
鳥取県立博物館	受贈記念　垣田堅二郎コレクション展 近現代版画の魅力 －ルオー、クラーヴェ、菅井汲、深澤幸雄、李禹煥らを中心に－	4月10日～5月9日
島根県立三瓶自然館	THE 昆虫展　小さなムシの大きなチカラ	7月17日～9月26日
人と科学の未来館サイピア （岡山県生涯学習センター）	企画展「岩石７億年の旅」	4月3日～5月30日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「新着資料展＜昆虫　後期＞」	5月9日～5月26日
	特別陳列「宮沢賢治の石ものがたり」	6月5日～7月4日
北九州市立いのちのたび博物館 （北九州市立自然史・歴史博物館）	「世界遺産ビジターセンター」開設	3月16日～2022年3月31日
	企画展「北九州・産業都市の軌跡」	4月29日～5月30日
	北九州未来創造芸術祭　ART for SDGs	4月29日～5月30日
熊本県博物館 ネットワークセンター	海辺の植物	3月30日～5月30日

※次号（7月号）に掲載の7月8月の特別展情報は5月24日（月）までにお寄せください。

リニューアル情報

※次号（7月号）に掲載のリニューアル情報は5月24日（月）までにお寄せください。

日立シビックセンター科学館「サクリエ」

［更新箇所］　科学館展示場

［更新面積］　2,755㎡（8F：1,685㎡、9F：730㎡、B1F：340㎡）

［更新内容］　８・９階の展示フロアを全面リニューアルしました。８階には、日常と科学をつなぐ「はっけんフィールド」を中心に、大型シンボル展示の「ためしてハニカム」、「わたし」「いえ」「まち」「ちきゅう」「うちゅう」スケールの異なる５つのエリアで構成されて楽しみながら科学原理を学ぶ「たんきゅうガレージ」、そして、サイエンスショーをフロア内のどこからでも見ることができる「サイエンススタジオ」を整備しました。９階には、「ノーベル賞受賞者からの手紙」、「実物元素周期表」の展示の他、週末には様々な工作などの体験プログラムを展開する「ひらめきアトリエ」や「休憩スペース」などを整備しました。他にも、地下１階から１・８・９・10階を結ぶエレベーターも更新し、映像と音による演出も更新し、日立駅前の拠点施設として、子どもから大人まで楽しみながら科学を学び、幅広い年代の市民が交流する場となりました。

［公 開 日］　2021年４月17日

８階展示場エントランス
（左側が大型シンボル展示「ためしてハニカム」）

工作や実験などのワークショップを行う
「ひらめきアトリエ」

名古屋市科学館

［更新箇所］　生命館4館「人体のふしぎ」（旧「人体のしくみ」）第5期

・人体のしくみを模型や映像等で学べる展示　5点

「**透明人体**」 透明な人体模型（男性像・女性像）の台のボタンを押すと、対応する臓器が光り、位置や形を知ることができます。

「**からだのふしぎ**」 体中での変化は考えなくてもずっと続き、一人のヒトのからだはふしぎさに満ちていることを映像とナレーションで紹介します。

「**胎児の成長**」 お母さんのおなかにいる赤ちゃんの約38週間の様子を10の時期に分け模型で展示し、赤ちゃんの成長過程とそれぞれの時期の特徴を紹介します。

「**かわるからだ**」 ヒトの一生で起こるからだの変化を段階ごとに紹介します。

「**クイズ呼吸・循環**」 選んだテーマの3択クイズに答えると正解と簡単な解説がモニタに映し出され、さらに詳しい解説も見ることができます。最後に評価も表示されます。

［更新面積］　約100㎡

［更新内容］　生命・生活・環境について紹介する「生命館」の4 階「人体のふしぎ」では、身近にありながら知らないことの多い、「からだ」のふしぎをテーマとしています。今年の春は改装の５カ年計画の最終年度として新しい展示品5種を展示室の一部に設置しました。全展示品数は７ゾーン23点となり、楽しみながら学ぶことができる構成です。「自分自身」（自分の体を使った・自分の体を調べる）の体験ができるもののほか、人体の基本的なしくみを模型や映像、イラストや解説で知ることができるものを設置し、家族や友達と一緒に楽しむ「学びあい」ができるようなつくり（複数の人が同時体験可能な設計や、１人で体験するものも大きな画面で全員が見られるなど）としています。
見学後に、楽しく感想を語り合い、自分自身のからだや、ヒトのからだについて、その不思議さ・大切さを考えていただくことにつながることを願っています（なお、平成元（1989）年の生命館開館当時の展示室「人体のしくみ」で展示していた模型の一部も再利用しています）。

［公 開 日］　2021年３月20日

展示室全景
新展示「透明人体」（2体のうち男性像。女性像は右手にあるが見えていない）のほか、各展示品が見える。

新展示「胎児の成長」
約38週の妊娠期間を10に分け、胎児模型（1989年の「生命館」開館当時展示していたものを再利用）と解説で紹介。

こころを動かす空間をつくりあげるために。
調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営
Tanseisha
空間創造のプロフェッショナル 株式会社丹青社
〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F
TEL|03-6455-8100(代表)　URL|www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・上海

TOKYO SCIENCE CO., LTD.
ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本
since 1974
地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル
◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F　TEL 03(3354)0131(代表)◆
Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 東京サイエンス
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
Practical Specimens for Study of Earth Science

我が館の推しモノ・コト

第34回 伊丹市昆虫館　長島　聖大

昆虫を生き生きと伝える白バック写真

白バック写真を用いたサトセナガアナバチの展示パネル

伊丹市昆虫館HP
HP https://www.itakon.com/

「白バック写真」は展示や印刷物等で多用する当館の得意技です。小さな昆虫でも生き生きとした姿を伝えられるだけでなく、デザインを見栄えよく組み込む材料としても優れています。

白バック写真の撮影は、白い紙の上に生きた昆虫をのせ、ディフューズを効かせたストロボ光を当てながらレンズをよく絞って撮ることが基本です。昆虫の姿勢・解像感・影のつけ方・発色など、こだわる点がいくつかあって、日々研鑽を積んできます。

予告 次回執筆者は、三重県総合博物館 大島 康宏さんです。

リニューアル情報のご提供をお願いします

最近（近年）リニューアルした展示、コーナー等はありますか？
もし、リニューアル行いました！という館・園がございましたら、ぜひ全科協ニュースへ情報をご提供ください！
全科協ホームページの投稿フォームからご投稿いただけます。
もしくは、事務局（info@jcsm.jp）までお問合せください。
また、併せて特別展等の情報もご提供お待ちしております。（次号は7月8月開催分になります）
皆様のご投稿お待ちしております。

JCSM japanese Council of Science Museums Newsletter 全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

井島　真知（ベルナール・ビュフェ美術館学芸員）
大島　光春（神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員）
西田　雅美（公益財団法人日本科学技術振興財団 科学技術館運営部主任）
畠山　泰英（株式会社キウイラボ代表取締役）
平田慎一郎（きしわだ自然資料館学芸員（参事））
弘田　澄人（かわさき宙と緑の科学館天文担当係長）
濱田　浄人（国立科学博物館科学系博物館イノベーションセンター長）

全科協事務局

国立科学博物館
科学系博物館イノベーションセンター
（担当：松澤・新井・堤）
TEL 03-5814-9863　FAX 03-5814-9899
info@jcsm.jp

発行日　2021年5月1日
発　行　全国科学博物館協議会©
〒110-8718
台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印　刷　株式会社セイコー社